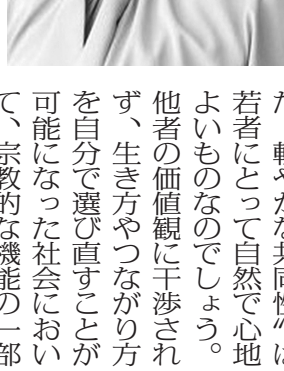


提 言

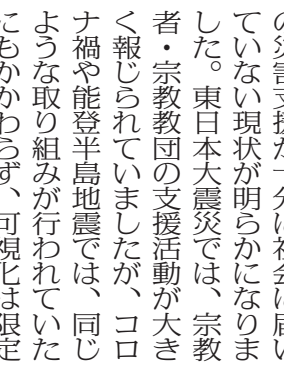
「すべてのいのちを尊ぶ世界実現」への道



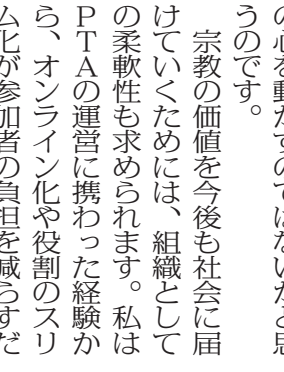
近年、若い世代はしばしば「宗教離れ」と語られます。しかし、私の研究実感として、若者の宗教的関心が失われているわけではありません。むしろ、推し活やスピリチュアル、ヒーリング文化、ボランティア活動など、精神性やケア、他者とのつながりを求める動きは一層高まっています。重要なのは、宗教そのものの価値が否定されているのではなく、その価値がどのように届けられているか、その「届き方」の問題であるという視点です。



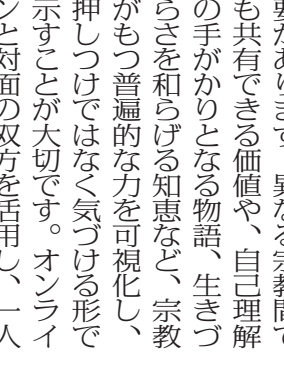
「被災害者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



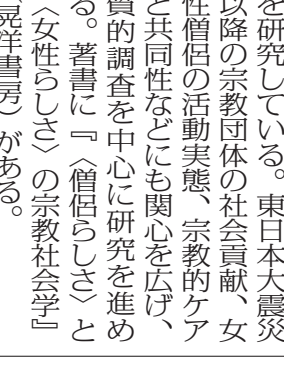
「被災害者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



「被災害者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



「被災害者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



「被災害者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。

研究者として、宗教者の実践を可視化し、データとして蓄積し、行政や市民社会に適切な形で伝えることも重要な役割です。宗援連の事務局や世話人の皆さまと力を合わせながら、宗教者と研究者がタッグを組み、日本社会における「いのちを守るネットワーク」を未来へと継承したいと思っています。

研究者として、宗教者の実践を可視化し、データとして蓄積し、行政や市民社会に適切な形で伝えることも重要な役割です。宗援連の事務局や世話人の皆さまと力を合わせながら、宗教者と研究者がタッグを組み、日本社会における「いのちを守るネットワーク」を未来へと継承したいと思っています。

研究者として、宗教者の実践を可視化し、データとして蓄積し、行政や市民社会に適切な形で伝えることも重要な役割です。宗援連の事務局や世話人の皆さまと力を合わせながら、宗教者と研究者がタッグを組み、日本社会における「いのちを守るネットワーク」を未来へと継承したいと思っています。

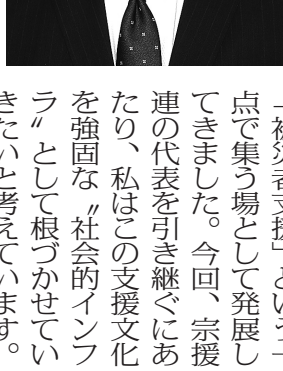
研究者として、宗教者の実践を可視化し、データとして蓄積し、行政や市民社会に適切な形で伝えることも重要な役割です。宗援連の事務局や世話人の皆さまと力を合わせながら、宗教者と研究者がタッグを組み、日本社会における「いのちを守るネットワーク」を未来へと継承したいと思っています。

研究者として、宗教者の実践を可視化し、データとして蓄積し、行政や市民社会に適切な形で伝えることも重要な役割です。宗援連の事務局や世話人の皆さまと力を合わせながら、宗教者と研究者がタッグを組み、日本社会における「いのちを守るネットワーク」を未来へと継承したいと思っています。

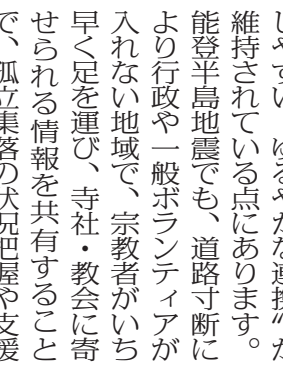
研究者として、宗教者の実践を可視化し、データとして蓄積し、行政や市民社会に適切な形で伝えることも重要な役割です。宗援連の事務局や世話人の皆さまと力を合わせながら、宗教者と研究者がタッグを組み、日本社会における「いのちを守るネットワーク」を未来へと継承したいと思っています。



分断や孤立が深まる中、排外主義の広がりやSNS上の断絶、若者や少数者の居場所の乏しさが社会課題として浮き彫りになっている。一方で、推し活やスピリチュアル、災害時における宗教者の協働など、宗教が本来もつ「つながり」「包摂」「支え合い」の力が、いま改めて注目を集めている。本特集では、能登半島地震から2年を迎える



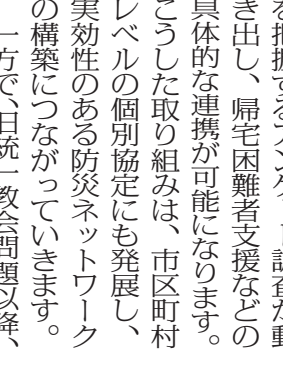
中、宗教者災害支援連絡会（宗援連）が育んできた協働の文化、若者に開かれる新たな宗教性、そして排外主義を越えて人を結び直す宗教の力、という三つの視点から、宗教が社会に果たす役割を考える。対話と抱擁の時代」に、識者の提言から新宗連が掲げる「すべてのいのちを尊ぶ世界実現」へと続く道を探りたい。



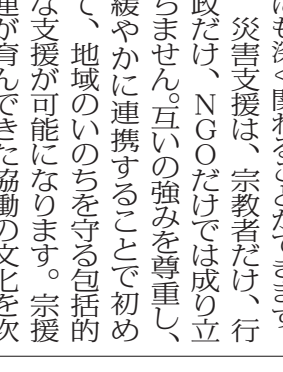
「被災者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



「被災者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



「被災者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



「被災者支援」という一語で集う場として発展してきました。今回、宗援連の代表を引き継ぐにあたり、私はこの支援文化を強固な「社会的インフラ」として根づかせたいと考えています。



新宗連は能登半島にボランティアを派遣（2024年6月）

能登半島地震から2年―宗援連の取り組み協働がひろく、いのちを支える支援の未来

稲場 圭 信（大阪大学大学院教授）

と考えています。多様な宗教団体を束ねる都宗連と、最大規模の自治体である東京都が協定を結んだことは、全国の自治体に對して「宗教者との協働は可能であり、必要である」という明確なメッセージになります。協定後は、宗教施設の設備・耐震性・井戸水の保有状況などを把握するアンケート調査が動き出し、帰宅困難者支援などの具体的な連携が可能になります。こうした取り組みは、市区町村レベルの個別協定にも発展し、実効性のある防災ネットワークの構築につながっています。一方で、旧統一教会問題以降、行政が宗教法人との連携に慎重になっている現実があります。だからこそ、宗教者が平時から地域コミュニティと関係を築き、行政とも地道に協力していく姿勢が欠かせません。北海道胆振東部地震（2018年）の際、地域住民が「まずはお寺の再建を優先しよう」と声をあげた例は、平時からの信頼関係がいかに大切な物語っています。宗教者は地域に根ざし、場所の力と人のネットワークを持ち、災害時には現地の状況を最も早く掴み存在です。宗教施設が被災していなければ、多宗派の宗教者が拠点として活用し、炊き出しや物資提供が進められます。宗教者の「現場力」は、災害NGOでは補いきれない領域を担う力と言えます。

なぜ今、「宗教の価値」が届かないのか―若者に関する「新しい宗教性」とアプローチ

丹羽 宣 子（立教大学助教）

せん。宗教教団が制度・教義・儀礼を重視するのに対し、こうした若者文化は自分で選べる「強制されない」「癒やしや幸福感が優先される」形を採用しています。宗教社会学者のグレイ・デイヴィ氏が提唱した「所属なき信仰」という概念は、こうした状況を理解するヒントになるかもしれません。個人が心の居場所を選び取る時代になったと言えるのです。推し活のコミュニティが安心



現代の若者は宗教に無関心なのか…

ひとりの生活リズムに寄り添った参加のあり方を模索することも求められます。若者は宗教に無関心なのではなく、「よく分からない」、だから「なんとも、怖い」という構造にとらわれているだけです。その殻が破れた時、宗教は単なる外側の仕組みではなく、人生の物語を深め、他者につながるための文化的装置として再び息を吹き返すでしょう。宗教者や研究者が、この価値を丁寧に言語化し、時代に合った形で手渡していくこと。その積み重ねこそが、宗教と若者を未来へつなぐ道になると考えています。

世界各地の紛争等の平和的解決を―「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を祈念いたします

(50音順)

宗教法人
阿吽阿教団本部教会

東京都港区高輪二丁目一番十号
電話（三三七）〇五二八番

宗教法人
大神教

管 長 西野 延 和
〒633 0001 奈良県桜井市三輪一九八
電話（〇七四四）四二一六〇五七

宗教法人
神ながら教

教 主 水野 富久子
役 員 一同
名古屋市中区徳川一丁目15番18号
電話（九三三）〇一三三八

宗教法人
救世真教

会 長 新井 光 興
顧 問 新井 三知夫
群馬県高崎市箕郷町中野二九二
電話（〇二七）三七一一三六三九
FAX（〇二七）三七一一三六三九

宗教法人
現證宗日蓮主義佛立講

講 主 藤井 日 男
〒513 0809 三重県鈴鹿市西条二丁目三一六
電話（〇五九）三八二〇四四二
FAX（〇五九）三八二〇四四二

修養団捧誠会

総 裁 出居 徳 久
会 長 青木 正 孝

円 心 教

教 主 深田 充 啓
兵庫県丹波市山南町村森一一一
電話（〇九七）二四〇四三〇代表

宗教法人
加納太霊教院

院 長 加納 理 孝
〒074 1273 北海道深川市音江町音江七五番一七号
電話（〇二六四）二五一一七八六
FAX（〇二六四）二五一一七九〇

宗教法人
攔營界教団

法 主 林 玄 光
大阪府大阪市東淀川区西中島七番十三号
電話（〇七二）八九一一二五八

解 脱 会

法 主 岡野 英 祥
法 主 岡野 孝 行
理事長 岡野 英 夫
〒160 0007 東京都新宿区荒木町四番地
電話（〇三三）三三三三三三
FAX（〇三三）三三三三三三

思 親 会

会 長 飯島 法 道
〒259 1102 神奈川県伊勢原市四馬五九
電話（〇四六）三九一一三二二（代）

松緑神道大和山

教 主 田澤 清 喜
代表総務 茶 谷 助
青森県東津軽郡平内町外童子字
滝ノ沢二ノ三

こうした現象の背景には、経済的貧困と精神的貧困が同時に進んでいる現実があります。人は自らが満たされていないとき、他者への共感を失い、攻撃や排斥に傾きやすくなります。排外主義は突発的に生まれるものではなく、生活の苦しさや不安の蓄積の中で生

る言葉 いわゆる「ガバメントスピーチ」です。行政や政治が発する言説は、人々の意識形成に大きな影響を与えます。特定の集団を問題視する政策やその表現は、「やはりの人たちは危ない存根底には、「こんなはずではなかった」という喪失感があります。高度経済成長期や、「ジャパン・アズ・ナンバワン」と呼ばれた時代の記憶が、現在の停滞感と重なり、怒りや不満のはけ口として他者を排除する

示し、靈力に頼りすぎると自分に力があると勘違いする。何事も「神から与えられていることを忘れてはならない」と語り、「本当の奇蹟とは私たちが日々生かされて生きていること。日々天地の神、先祖への感謝の祈りを捧げると共に生きまよって生かされているものによって生かされていることを顧みることが大切」と結んだ。

配食と対話で孤立と向き合う現場。分断の時代に、
宗教のつながる力を示す（提供：NPO法人拘樫）

【プロフィール】わたなべ まどゆき 専門は生活指導、道徳教育、多文化共生教育、差別・排外主義などの教育社会学。埼玉県内の中学校教員として22年間勤務した後、大学教員として教育現場と社会問題とを結ぶ研究・教育に取り組んでいる。ハイトスピーチやマイクログレッションに関する講演・執筆活動でも知られる。

が感謝御礼を言上した。伊都の代表者神祖み手（信者）の奏上、一同で「天律祈言」「神歌」を奏上。次に「報告に続き、親拝、祭文の朗読に続き、岡田光史教主が来賓大勢参員のおいさげに臨して開式。奉斎準備完了。」

辞、祝電披露が行われた。

を行(い) (写真)、今年6月に出席した、韓国・天安市での「第3回新しい日韓友好の会」について紹介。激動する時代にあって、民主国家として隣国と手を携へ平和を希求することの重要性を強調した。また、8日に高山市で開催した「教育文化会次世代リーダー研鑽会」や、陽光文明研究所主

ては宗教教育が十分に行われていない現状を厳しく指摘。特に五大宗教の理念が理解できず、価値判断ができないこと、宗教とは何か「新宗教」とは何かが分からない青少年を取り巻く状況に深い懸念を示した。

こうした課題を踏まえ、近年は特に「神とは何か」「自分は何か」の基本を伝えていると述べ、岡田光一と初代教主が示した「神と人の関係性」「大霊界の世界」、さらに「上下」の関係性や仕組み「立て別ける能力」等の価値判断の仕組めと重要性が「御聖言」に明示されていると解説した。

「現代社会では神と人をひっくり返して、果ては人間が上になり神にもの申

大恩師の八十一回遠忌にあたり、聖地は朝から厳肅な祈りに包まれた。

式典に先立ち、宮本恵司會長が聖苑内の久遠佛塔に1万5172家の総戒名を新たに祀り込んだ。

式典は午前10時に開式。青年部員18人による献灯・

ようなものと称えな
 逸話を紹介し、會主
 さま、大導師さまのど
 指導は私たちにとつて
 「寶」です」と述べた
 その上で、「妙智の女
 教えのもとには宮本孝平
 大恩師さまのご精神で
 ございます。何があつ
 てもぶれない、信じ切
 る、世を救ひ、人に慈
 悲をかけ、人を許す。
 何があつてもやり通す

行へたその世に於ては、
りやトハンを引き継ぎ、未
来永劫にわたり、妙智のみ
教が統ぶように精進して
まいります」と今後の決意
を表明した。

読後後は、一年の修行を
振り返る「累の目」とし
て、新役員への任命、支部
授与、法授受が執行行わ
れ、地九十九里町の藤原
貞樹副町長に文化振興資金
が贈られて

贈りて宮本會長が「二指
導（一寫真）。妙智會教団
の教の根本にある大恩師
の精神を示した。さらに、
南無寶賢神への信仰を
説明が宮本家に入れた縁
三寶如母さま、私が各家
に分けているのです。その
ことも理解頂き、しっか

人々に慈悲を与えなさい」と教示。特に慈悲は「まず親へ向けるもの」とし、「妙智會は先相供養の教えで

心 の 抛 り 所、修 練 を
積 む 大 切 さ を 説 く

大 和 教

最後に参加者一同が「
恩師讃歌を斉唱し、深いす
謝と決意を胸に閉会した

人々に慈悲を与えなさい」と結んだ。

の冒頭、参列者二、三の「祈りのことばは、
開きあいさつの後、
信精敏子教祖と齋
国歌斉唱、齋主
よる一拝の礼、
「祝詞奏上の後
大幣祓いの儀が修
せられた。
齋主と齋員が建
摩壇に对应し、文
主が秋季大祭の切
詞を奏上、護摩

あいつつに立つて、例大祭が、
参列者の罪・穢れを淨め、
亡き人々の靈魂をも清めるるの
意義があること、大和教の
教えが「届く祈り 届く供
養」であることなどを説いた。
た。

そして「大神様のお言葉
を読み上げ、神仏への感謝
天地自然に感謝する神道の
教え、武士道精神に込めら
れた心の修練の大切なこと
が論された。保積教祖は
「大神様のお言葉」を解説
しつつ、「心の拠り所を神
棚仏壇の神仏として、心の
修練を積んでいくこと」
をお願いしますと語った。

あいつつ後には、信託代
表から感謝の花束が保積教
祖に贈られ、教祖が改めて
参列者に謝意を述べた。

世界各地の紛争等の平和的解決を―「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を祈念いたします (50音順)

一人ひとり
神と出会う
一人ひとりが
神を現わす

一切を生かす
神随らの教えのにわ
倅せへの
大和教團
道しるべの神を祀る
大國神社

天恩教

〒619-1301
京都府相楽郡笠置町大字有市小字西狭間一番地
電話(〇七四三)九五一二七八

加納太霊教院

先代院長25年祭

生涯を振り返り功績称える



加納太霊教院（加納理孝院長）は10月26日午後1時から、北海道深川市の太霊殿で先代院長・加納包靖師の没後四半世紀の節目にあたり、その功績を称え感謝

全8回が閉幕

立正佼成会



大和教団の保積教務総長らが「弥栄祈念」の祝いを披露した

保積志弘教務総長をはじめ4人が華やかな「大黒様」の衣装で登場し、「弥栄祈念」のお祝いを披露。これは、大和教団の保積秀胤教主一行が先ごろ、立正佼成会本部を表敬訪問した際、米寿記念代表参拝の最終回

「お祝いの集い」

全8回が閉幕

立正佼成会

大和教団の保積教務総長らが「弥栄祈念」の祝いを披露した

保積志弘教務総長をはじめ4人が華やかな「大黒様」の衣装で登場し、「弥栄祈念」のお祝いを披露。これは、大和教団の保積秀胤教主一行が先ごろ、立正佼成会本部を表敬訪問した際、米寿記念代表参拝の最終回

加納太霊教院

先代院長25年祭

生涯を振り返り功績称える

加納太霊教院（加納理孝院長）は10月26日午後1時から、北海道深川市の太霊殿で先代院長・加納包靖師の没後四半世紀の節目にあたり、その功績を称え感謝

心をつなぎ、未来へ

青年部結成60周年記念大会

平和の祈り新たに

善隣教

久隆積・二代教主の就任を機に若人会から改称して以来、青年育成と教勢発展に尽力し、併せて韓国原爆被害者支援にも40年以上にわたる取り組みを続けてきた

式典は灯籠献土、青年部旗入場、田基煥青年部長のあいさつ、オープニング映像の放映を経て第一部「未来愛平和祈願祭」が開幕。久久美雪霊主が入殿し、善隣道場観、御詞、御誓書を厳かに奏上した。今回の灯籠は、終戦の日（8月15日）から続けた「100日祈願」の結願として、青年・学生・児童が代表して献灯したもので、55年間にわたり治病道に励み、2000（平成12）年に78歳で生涯を閉じた。一方で、そのような境遇にあったからこそ、来院者に家庭内での愛情が必要であると説いていたように思えます。お祭りに来た信者さんとお話する機会を大切にしていました。父が願ったように信者は信者さんで、実家のような場所でありたいと思います」と述べた。

御誕生百年祭

初代宮司が拓いた道の継承を誓う

玉光神社

玉光神社本山（博宮司）は12月15日午前10時から、東京都三鷹市の神社拝殿で、初代宮司・本山博師の「御誕生百年祭」を執り行った。

本山師は1925（大正14）年12月15日、香川県生まれ。55（昭和30）年、玉

安食天恵宮主二十年祭

信徒と共に歩んで

大和之宮

大和之宮（安食克己代表役員代務者）は11月20日午前11時から、山形市の本部で安食天恵宮主（教祖）の二十年祭を執り行った。

安食宮主は1981（昭和56）年4月、天命を授かり、86（同61）年、宗教法

歓喜祭を挙行

阿吽阿教団

阿吽阿教団（鈴木光彌主）は11月8日午後2時から、東京都港区のアンナ会館で「令和7年阿吽阿歓喜祭」を挙行した。歓喜祭は、教祖・富岡俊次郎師が1929（昭和4）年11月18日に宇宙の真理「阿吽阿」を感得したことを記念して営まれる、教団で最も重要な年中行事。

歓喜祭を挙行

阿吽阿教団

阿吽阿教団（鈴木光彌主）は11月8日午後2時から、東京都港区のアンナ会館で「令和7年阿吽阿歓喜祭」を挙行した。歓喜祭は、教祖・富岡俊次郎師が1929（昭和4）年11月18日に宇宙の真理「阿吽阿」を感得したことを記念して営まれる、教団で最も重要な年中行事。

安食天恵宮主二十年祭

信徒と共に歩んで

大和之宮

大和之宮（安食克己代表役員代務者）は11月20日午前11時から、山形市の本部で安食天恵宮主（教祖）の二十年祭を執り行った。

安食宮主は1981（昭和56）年4月、天命を授かり、86（同61）年、宗教法

歓喜祭を挙行

阿吽阿教団

阿吽阿教団（鈴木光彌主）は11月8日午後2時から、東京都港区のアンナ会館で「令和7年阿吽阿歓喜祭」を挙行した。歓喜祭は、教祖・富岡俊次郎師が1929（昭和4）年11月18日に宇宙の真理「阿吽阿」を感得したことを記念して営まれる、教団で最も重要な年中行事。

歓喜祭を挙行

阿吽阿教団

阿吽阿教団（鈴木光彌主）は11月8日午後2時から、東京都港区のアンナ会館で「令和7年阿吽阿歓喜祭」を挙行した。歓喜祭は、教祖・富岡俊次郎師が1929（昭和4）年11月18日に宇宙の真理「阿吽阿」を感得したことを記念して営まれる、教団で最も重要な年中行事。

世界各地の紛争等の平和的解決を―「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を祈念いたします

(50音順)

宗教法人

天頭山

晃妙寺

住職 松本晃芳

役員 一同

大阪府枚方市招提平野町四ノ一四

電話 〇七七八五七四六六番

宗教法人

七曜会

大阪府枚方市招提平野町四ノ一四

電話 〇七七八五七四六六番

宗教法人

天光教總本部

大阪府天王寺区東上町八番十四号

電話代表大阪〇六六七二〇三八八番

宗教法人

日月神一条

吹田市内本町一丁目九の四

電話 六三八一四一九六番

宗教法人

法公会

会 長 榊 原 光 徳

大阪府天王寺区松ケ島町四三四

電話 〇五六六八二一三七五九

宗教法人

妙道会教団

会 長 佐 原 慶 治

大阪府天王寺区松ケ島町四三四

電話 〇六六七二二〇五〇

宗教法人

大和教

宮城県塩竈市南町六・五

電話 〇二二二六二二一三九二

宗教法人

良辨教本部教会

大阪府八尾市景町一丁目一三七の三

電話 〇二二九九六四九六番

宗教法人

福聚の会

会 長 杉 浦 妙 周

大阪府天王寺区松ケ島町四三四

電話 〇五六六八二一三七五九

宗教法人

妙智會教団

会 長 佐 原 慶 治

大阪府天王寺区松ケ島町四三四

電話 〇六六七二二〇五〇

宗教法人

八津御嶽神社

代表役員 山 本 行 徳

東京都中野区本町2丁目7-6

電話 03-3372-4251~2

ファックス 03-3374-1806

宗教法人

立正佼成会

会 長 庭 野 日 鏡

理事長 熊 野 隆 規

東京都杉並区和田二丁目一六二

電話 〇三三四二二六二五

https://www.kosei-kai.or.jp

第55回宗教法人運営実務研究協議会 消費者保護法について学ぶ

東京都宗教連盟

東京都宗教連盟(都連連、佐原透理事長)は11月25日午後1時から、東京都渋谷区の神社本庁大講堂で「第55回宗教法人運営実務研究協議会」を開催した。

「第55回宗教法人運営実務研究協議会」を開催した。都民生活部管理法人課宗教法人総括担当の東正洋氏、宗教法および宗教経営研究所所長教授の櫻井園郎氏、中央大学大学院教授の宮下修一氏が担当した。

冒頭、東京都宗教連盟の佐原透理事長と東京都生活文化局都民生活部の柏原弘幸部長があいさつした。東氏は東京都の宗教行政の現状を報告。都が所轄する宗教法人は令和7年4月1日現在5701法人で、報道系1571、仏教系2863、基督教系486、

諸教系781となり、全国と同様に緩やかな減少傾向にあると説明した。

備付書類の提出率は令和5年度で96・2%と高水準で、全国平均(93・6%)を上回っている一方、国の通知を踏まえ、不活動宗教法人への対応を強化しているという指摘。宗教活動の休止や代表役員不在などの要件に該当する法人に対し、督促や過剰通知、包括法人への照会、現地調査を行っている」と述べた。最後に、適正な法人運営のため、書類提出や事前相談への協力を呼びかけた。

櫻井氏は「宗教活動と消費者保護法について発表。消費者契約法」の目的を「情報格差・交渉力格差の是正」として、誤認・困惑による契約取消し、不利な事実の不告知、断定的判断の提供、威迫的勧誘など、違法行為の類型を整理した。靈感等を利用して不安を煽る行為は典型的な取扱いし事由になると指摘した。

特定商取引法(特商法)については、訪問法については、訪問3氏の講演の後、質疑応答が行われた。



3氏の講演の後、質疑応答が行われた。

令和6年能登半島地震被災地の現状と課題

宗教者災害支援連絡会

(宗援連、稲場圭信代表)

は11月29日午後2時から、東京都千代田区の真如苑友心院で、令和6年能登半島地震被災地の現状と課題について、第43回情報交換会をオンライン併用で開催した。冒頭、島蘭進前代表のあいさつに続き、新代表の稲場圭信氏(大阪大学大学院教授)が就任の抱負を述べた。

総合討議の中で、参加者からも意見が相次いだ。

当日は日本宗教連盟理事長の長の日谷照應氏、高野山足湯隊で高野山真言宗玉泉寺(金沢市住職)の辻雅崇氏、真宗大谷派浄土宗(輪島市)住職の岸超氏、珠洲市のきしんセンターの石橋雄一郎氏(天理教員立分教会長)の4氏が登壇した。

辻氏は2007(平成19)年の能登半島地震以降、継続して足湯・仏像修復に取り組んできた経緯を紹介。足湯に美容・整体・喫茶を組み合わせ、避難所や仮設住宅で被災者が安らげる場づくりに取り組んでいると報告した。美容支援では洗髪や白髪染めを求める声が続出した。

「一方、寄附への誘導など形を変えた勧誘が見られる」と指摘した。不法行為、公序良俗違反、錯誤・詐欺・強迫、消費者契約法、不当寄附防止法、特定商取引法の六つを宗教トラブルの主要な救済手段として挙げた。

害悪告知や心理的圧力による過大な献金を違法とした東京地裁判決、宗教性を秘匿した因縁話による不安誘導を違法とした札幌高裁判決などを示し、組織的勧誘の違法性が認定されたことについて、宗教者の行為は商取引に当たらないと説明。一方、宗教法人は世俗事務を担う法人格であるため、収益事業は特商法の適用対象となり、公益事業でも対価性が認められれば規制の対象になると話した。

加えて2022年の法改正。世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会(戸松義晴理事長)の人身売買禁止タスクフォースは11月19日午後2時から、東京都千代田区の参議院議員会館で「人間の尊厳を考える 円卓会議2025」をオンライン併用で開催した。

当日は、自見はなこ参議院議員、札幌地域労働組合の鈴木一氏、インターネット報道メディア「OnLine」代表理事の堀潤氏の3氏が

人身売買禁止タスクフォース 外国人労働者の人権を議論 WCRP日本委員会

基調講演を行った。

自見氏は、技能実習制度の転籍制限や家族帯同不可などの課題を整理した上で、2027(令和9)年に施行される「育成就労法」に言及。転籍や職種選択、居住地の自由を認める制度転換の意義を強調し、外国人医療体制整備など包括的な政策対応の必要性を述べた。

鈴木氏は、借金を抱えて来日した技能実習生が不当解雇や劣悪な住環境に置かれる事例を報告。ベトナム人実習生の解雇トラブルに組合が介入したケースを紹介し、団結権と法的手続きを適切に行き通すことで、外国人労働者の権利回復が可能だと訴えた。

多く、被災者が明るさを取り戻す姿が見られたと語った。

辻氏は被災者の歩みに触れ、足湯は苦しみを共に担う「仏頂頂上」の実践と称し、身体への動きかけを通して、心身のケアの意義を説いた。

岸氏は自坊が半壊する中、宗派を超えて支援者が集い、境内で炊き出しを始めた経緯を説明。現在は「チーム輪島」として「お寺食堂」「お寺カフェ」として食事提供と居場所づくりを続けていると報告した。

一方、公営住宅入居者の高齢化や若年層流出に触れ「戻る理由のない故郷」への懸念を示した。

石橋氏はこのほか、参加者からは地域に根ざした宗教者の支援が長期再生の基盤になるとの意見が相次ぎ、能登の経験を活かした協力体制づくりにどう生かすかが課題として浮かび上がった。

誰もが普通に暮らせる 社会の実現を

近畿宗教連盟 総会

近畿宗教連盟(近連連、荒木元悦理事長)は11月28日午後2時半から、「令和7年度近畿宗教連盟第76回兵庫総会」を神戸市内のホテルで開催した。

第一部の議事では令和6年度事業報告と会計決算報告並びに会計監査報告、併せて令和7年度事業計画と予算案について審議。すべて原案通り承認された。

また荒木元悦理事長が今期末をもって退任、京都府宗教連盟委員長の池川智世雄氏が令和8年度から理事長に就任することとなった。

第二部では「社会福祉法

た。併せて、イスラエル・パレスチナやメコン地域での取材映像を紹介し、現場に立ち続ける報道の意義を示した。

円卓ディスカッションでは、支援団体から現場の課題が共有された。日越ともいき支援会の吉水慈恵氏は、失踪や犯罪に至る前にSNSを通じて相談できる体制の必要性を示し、生活支援・啓発活動など多角的な取り組みを報告。移住者と連携する全国ネットワークの山岸素子氏は、言語・制度の壁により移住者が不利な立場に置かれる構造的課題を指摘し、政策提言や支援団体の連携による改善を求めた。日本イスラム文化センターのクレイシ・ハルーン氏は、宗教的配慮、技能実習生や難民の困難、土着をめぐる課題など、多様な現場の実情を紹介した。

会議終了後、WCRP日本委員会では「人身売買禁止に向けたアピール2025」(声明文)を採択し、篠原祥吾・事務局長が発表した。声明では東京都内の違法マッサージ店での性的搾取を受けたタイ国籍12歳少女の事件を以て、日本国内での人身売買が深刻化している現実を提示。「人身売買は、決して遠い国や特殊な状況の中で起きている問題ではない」と指摘した。また、宗教者が共有する「いのちの平等な尊厳」を、円卓ディスカッションでは、支援団体から現場の課題が共有された。

このほか、参加者からは地域に根ざした宗教者の支援が長期再生の基盤になるとの意見が相次ぎ、能登の経験を活かした協力体制づくりにどう生かすかが課題として浮かび上がった。



令和7年度 第76回 兵庫総会

山口氏は日本が世界有数の高齢社会である現状を示しつつ、65歳以上の生活満足度は、比較的高水準で推移している点に触れ、今後の社会は「ウェルビーイング(心身や社会の状態が良好であること)が重要になると指摘。国際的にもSDGs(持続可能な開発目標)に続く新たな目標として

新日本宗教青年会連盟(新連連青年会、宮本泰良委員長)は11月29日午後1時半から、東京・代々木の新連連会館とオンラインを併用し、令和7年度第4回とする3カ年計画の2年目として、「宗教と戦争」を軸に学びを深める方針を

報告された。

確認。内容に見識のある講師を選定、4月の拡大委員会と併せて学習会を実施する。

また、「青年平和使節団」は、ニューヨーク派遣を予定し、令和8年3月の「青年平和調査団」で、事前視察を行うことを確認した。「ユースフォーラム2026 in 足利」の準備状況も報告された。

新刊紹介

認知宗教学から見る現代宗教

井上順孝 著



本書は、近年、発達が著しい認知科学、ニューロサイエンス(神経科学)における知見を手がかりに、現代宗教をいかに捉えられるかに挑戦した刺激的な書物である。

著者は半世紀にわたって、新宗教をはじめとする近現代日本の宗教の研究をリードしてきた宗教社会学者で、最近では欧米の認知科学、脳・神経科学を宗教研究へ応用する認知宗教学の可能性を提言し続けてきた。これまで日本の宗教研究ではほとんど参照されてこなかった新しい理論が、ふんだんに紹介され、従来の研究や視点への連接可能性が示されている。

とはいえ、著者が詳しく述べているように、取り上げられる宗教現象や研究課題自体が新しいということではない。むしろ、宗教と神、葬儀、呪術、宗教リテラシーなどを扱った。長年著者が取り組んできたテーマ

て、心理学者セリグマンが提唱したポジティブ・モデル(幸福を①前向きな感情②没頭③人間関係④意味⑤達成で捉える考え方)を紹介し、その中でも「よい人間関係が最も大切と述べた。さらに、北欧の福祉思想を踏まえ、ノーマライゼーションとは、「障害や病気がどんなに重くても、年をとっても、死が迫っても、誰もが「普通に暮らせる」社会を目指す必要がある」と説明した。

また日本は幸福度やジェンダー平等と課題を抱えている一方で、それは社会をより良く変えていくための伸びしろと指摘。福祉や介護の現場では、小さな改善や実践が積み重なり、「誰もが普通に暮らせる社会」は必ず実現できる。それは決して遠い理想ではなく、私たち一人ひとりの取り組みから始まる現実的な未来」と示唆した。

最後に、「社会福祉法人光明会オリーブ」の具体的な取り組みについて紹介。創設の精神を受け継ぎ、誰もが希望をもって輝く「ノーマライゼーション」社会の実現を目指していくと、講演を結んだ。

令和8年度事業等を協議

新連連青年会(拡大)委員会

新日本宗教青年会連盟(新連連青年会、宮本泰良委員長)は11月29日午後1時半から、東京・代々木の新連連会館とオンラインを併用し、令和7年度第4回とする3カ年計画の2年目として、「宗教と戦争」を軸に学びを深める方針を

報告された。

確認。内容に見識のある講師を選定、4月の拡大委員会と併せて学習会を実施する。

また、「青年平和使節団」は、ニューヨーク派遣を予定し、令和8年3月の「青年平和調査団」で、事前視察を行うことを確認した。「ユースフォーラム2026 in 足利」の準備状況も報告された。

世界各地の紛争等の平和的解決を―「すべてのいのちを尊ぶ世界」の実現を祈念いたします

(50音順)

| | | | |
|------------------------------|--|--|--|
| 公益財団法人 庭野平和財団 理事長 庭野浩士 | | 公益財団法人 新宗教連 東京 近連 青北連 青関連 青四連 青中連 青東北連 | |
| 公益財団法人 霊波之光教会 総教司 令本部 | | 公益財団法人 和光道教団本部 | |
| 公益財団法人 世界宗教者平和会議日本委員会 | | 公益財団法人 新日本宗教青年会連盟 | |



新宗連青年会

第60回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(青年平和式典)

祈りを行動へ 青年が担う慰霊と平和の継承

国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑

11月30日

新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮本泰克委員長)は11月30日午後1時から、東京都千代田区の国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑で第60回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(青年平和式典)を開催した。今回は終戦80年、第60回の節目の年にあたり、戦争犠牲者への慰霊と絶対非戦を誓い「原点への帰帰」を表明した。

「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」は1962(昭和37)年に始まり、半世紀以上開催されてきた。60回を機に従来の8月14日から青年会結成月の11月へと開催時期を変更した。当日は新宗連加盟15教団の青年代表をはじめ、新宗連役員、各界の来賓など約400人が参加し、ライブ配信を通じた参加も多数あった。

献灯・献饗の後、宮本泰克委員長による主催者あいさつ、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の保松秀次郎理事長による来賓あいさつ、15教団による教団別礼拝、加盟教団青年代表者の「平和へのメッセージ」奏上、参列者一同での黙祷、石倉寿一(新宗連理事長)のあいさつなどが続き、戦後80年の節目にふさわしい厳粛な式典となった。

式典では、開式とともに、新宗連青年会の代表12人による献灯と千羽鶴の奉納が行われた。

祈りの原点を再確認

主催者あいさつに立った宮本委員長は、同式典の開催時期の変更について言及した。新宗連青年会は1961(昭和36)年11月に結成し、翌62(同37)年4月に第1回式典を千鳥ヶ淵戦没者墓苑で実施。その後は68(同43)年から8月14日夕刻に開催する通称「8・14式典」として半世紀以上にわたり親しまれてきたが、節目となる第60回を機に原点に立ち返る機会として説明。変更の是非を問うのではなく、「この変化をきっかけに今後どのように歩んでいくかを継続的に考えることが



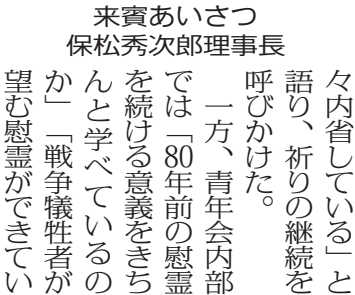
平和の祈り―宮本委員長の先導に合わせ、参列者一同で黙祷

るのか」「未来を生きる青年こそ、今も続く世界の戦争や紛争、国内の社会問題、苦しむ人々へ目を向け、行動すべきではないか」といった議論が生まれ、この問題意識を11月開催への転換につながったことを明かした。

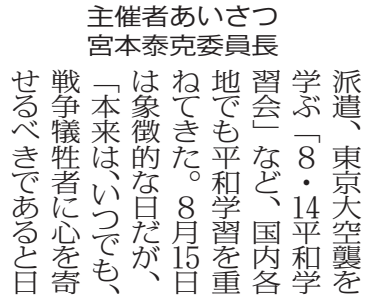
最後に宮本委員長は「先の大戦とその犠牲者を忘れることなく、慰霊を続けていくことは、これからも私たちの大切な責務です」と述べ、「過去に思いを寄せ、未来の平和を祈り、行動へつなげていく式典となることを願う」と締めくくった。

続いて来賓として「青年に向けてのメッセージ」を述べた千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の保松秀次郎理事長は、戦後80年の節目を迎えるにあたり、戦没者慰霊を次世代へ継承する重要性を強調。終戦時に生まれた世代が80歳となる現在、「あと30年後、この千鳥ヶ淵戦没者墓苑にあなたが参拝に来られるのでしょうかと投げかけ、継承の課題を示した。

新宗連青年会が60年以上前から「行動の柱」とする姿勢を改めて胸に刻んだと振り返り、4月から8月にかけて広島での被爆体験談、原爆資料館での学習、長崎県宗教者懇話会主催の原爆殉難者慰霊祭への参加、「沖繩慰霊の日」の代表者派遣、東京大空襲を学ぶ「8・14平和学習会」など、国内各地でも平和学習を重ねてきた。8月15日は象徴的な日だが、「本来はいづれも、戦争犠牲者に心を寄せざるべきである」と日々内省しているという。語り、祈りの継承を呼びかけた。



来賓あいさつ 保松秀次郎理事長



主催者あいさつ 宮本泰克委員長



献灯 青年会代表が六角堂内の祭壇に灯を献げる



円 応 教



解 脱 会



新宗連代表あいさつ 石倉寿一理事長

この後、教団別礼拝が行われた。解脱会、阿吽阿教団、円応教、救世真教、思親会、松緑神道大和山、崇教真光、善隣教、輪台意光妙教会、玉光神社、福聚の会、妙智會教団、立正佼成会の15教団の代表がそれぞれ祈りを捧げ、戦争犠牲者に慰霊・供養した。

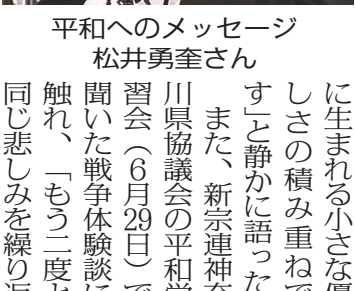


平和は日々の小さな優しさ

次に、加盟教団の青年を代表して思親会青年部の松井勇豪さんが「平和のメッセージ」を読み上げた。世界では今も紛争や飢饉が続く。多くの人々が恐怖と不安の中で暮らしている現実を示しながら、「本当に平和といえる80年だったのか」と問いつけた。ウクライナや中東の情勢に加え、報道されるこのない地域で苦しむ人々の存在にも触れ、「無力さに打ちひしがれることもありますが、一と率直な思いを吐露した。その一方で、そうした現実を直視するからこそ、思親会で学んだ教えを思い起こすと、平和は大きな理想ではなく、日々の中



教団別礼拝後、祈りを捧げる来賓と教団代表



平和へのメッセージ 松井勇豪さん

に生まれる小さな優しさの積み重ねです。静かに語った。また、新宗連代表の川原協議会の平和学習会(6月29日)で聞いた戦争体験談に触れ、「もう二度と同じ悲しみと繰り返してはならない」という願いを受け取ったとし、戦争を直接知る世代が平和のバトンを受け継ぐ最後の世代として、その証言を次世代に伝える使命があると感じた。ウクライナや中東の情勢に加え、報道されるこのない地域で苦しむ人々の存在にも触れ、「無力さに打ちひしがれることもありますが、一と率直な思いを吐露した。その一方で、そうした現実を直視するからこそ、思親会で学んだ教えを思い起こすと、平和は大きな理想ではなく、日々の中

において平和を祈り続け、皆さまでともに平和への歩みを絶やさぬことを誓う」と述べ、祈りを受け継ぎ次代につなぐ決意を示した。

続いて、宮本委員長の先導に合わせ、参列者全員で「平和の祈り」(黙とう)を捧げた。最後に、石倉寿一理事長が新宗連を代表してあいさつに立った。

世界各地で戦争や紛争が広がる現状に言及し、「ひとたび争いが起これば、犠牲になるのは市民であり、兵士です。とりわけ弱い立場に置かれた人々の尊厳が深く傷つけられま

はじめる政治関係者に対し、「二度と戦争を起こすような日本にならないよう、政治の面からお導きを賜りますよう、使命を果たしていただきますようにお願いを申し上げます」と呼びかけ、宗教と政治の双方が平和実現に向けて責任を果たす重要性を訴えた。

結びに、参列した国会議員をはじめとする政治関係者に対し、「二度と戦争を起こすような日本にならないよう、政治の面からお導きを賜りますよう、使命を果たしていただきますようにお願いを申し上げます」と呼びかけ、宗教と政治の双方が平和実現に向けて責任を果たす重要性を訴えた。

第60回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(青年平和式典)実行委員会(伊藤徳亮実行委員長)は12月3日午後3時半から、埼玉県北本市の解脱会「御霊地」の浄土場にて、同式典に加盟教団会員信徒をはじめ全国各地から献納された千羽鶴の「お焚き上げ」を行った。

冒頭、受け入れの解脱会(岡野孝行法長)の挨拶があった。新宗連青年会副委員長(新本宗)が閉会あいさつ。受け入れの解脱会に感謝の意を表すとともに、第61回という新たなスタートへ決意を新たに。最後に全員で黙祷を捧げた。

なお参加者はお焚き上げに先立ち、岡野法長の案内で「御霊地」の参拝を行い、解脱会の祈りに触れる貴重な機会となった。

伊藤徳亮(新日本宗教青年会)が閉会あいさつ。受け入れの解脱会に感謝の意を表すとともに、第61回という新たなスタートへ決意を新たに。最後に全員で黙祷を捧げた。



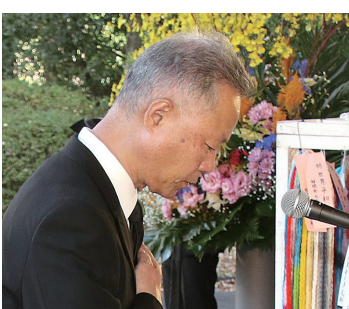
崇 教 真 光



大法輪台意光妙教会



善 隣 教



祖神道教団



福 聚 の 会



立正佼成会



妙智會教団